

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月1日現在

機関番号：74331

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22720258

研究課題名（和文）

室町文化の享受・形成過程に関する基礎的研究—武家儀礼の「時間」と「空間」—

研究課題名（英文）

The basic study on the Culture in the Muromachi era

研究代表者

家塚智子 (Tomoko Ietsuka)

公益財団法人 世界人権問題研究センター・その他部局等・研究員

研究者番号：10370206

研究成果の概要（和文）：

本研究では、室町時代における武家儀礼の次第に注目した。室町幕府の武家儀礼のうち、天皇行幸の場である將軍邸の室礼の様相、將軍の御成の際の各大名家、各寺院の室礼の様相、すなわち、その「空間」を唐物・唐絵・立花によって飾られる「座敷飾」の様相から、文化形成の「時間」「空間」を探る。そのうえで、猿楽、喫茶をはじめとする諸芸能・諸文化が、行幸や御成などの儀礼の次第のなかで、どのように組み込まれ、享受されたのか、考察した。

研究成果の概要（英文）：

This research is intended as an investigation of Samurai Ceremony in the Muromachi era. In this study the main stress falls on “Time and Space”, especially, “Zashiki-kazari” (or decoration the ceremony space with Chinese Painting and Standing Flower Arrangement). It offers the key to an understanding of the formation of this culture. Illustration from the House decorations under the situation such as Emperor visit Shogun house, or Shogun called on daimyo’s home, or any other guest go to temples are informative. In view of these examples, I consider how entertainment and art, such as Noh play, or Tea Ceremony, are organized and received in Samurai Ceremony’s program.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22年度	1,000,000	300,000	1,300,000
23年度	700,000	210,000	910,000
24年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本中世史・室町幕府・年中行事・御成・武家儀礼・芸能・贈答・饗宴

1. 研究開始当初の背景

室町時代、京都では、従来の公家の文化と禅宗など中国からの渡来の宗教・学問を背景としつつ、新たに武家社会を中心として室町文化が花開いた。

室町文化については、これまで、音楽史、茶道史、美術史などの個々の分野で、研究が進められ、かなりの蓄積がある。しかしながら、これらの芸能・文化事象は、個々の「場」で、形成されたものではなく、実は、同じ「時」、同じ「場」で、享受され、形成されてきたものである。

室町文化に限らず、日本の芸能、文化、芸術というものについて考えていく上で、個々の芸がどのような形をもち、それがいかにして継承されてきたか、という「芸態」を論ずることが重要であることは言うまでもない。これを「芸態論」という。一方で、芸能、文化、芸術の経済的基盤や社会的機能を明らかにし、どのような歴史的、社会的な背景において、それが享受されたのか、という「環境」について考察することもまた重要である。これを「環境論」という。（藝能史研究会編『日本芸能史1 原始・古代』法政大学出版社、1981年）

本研究では、従来の研究成果を踏まえ、室町文化の享受・形成の「時間」「空間」の様相について明らかにする。こうした観点から見直すことは、室町文化が生み出される背景を考える上できわめて有効であり、室町文化の「環境」を考察することにほかならない。

2. 研究の目的

室町文化が形成された「時間」「空間」

の実態を解明するためのひとつの手がかりとして、室町時代における武家儀礼の次第に注目する。

室町幕府の武家儀礼のなかでも、まずは、天皇行幸の場である將軍邸の室礼の様相、あるいは將軍の御成の際の各大名家、各寺院の室礼の様相、すなわち、その「空間」を唐物・唐絵・立花によって飾られる「座敷飾」の様相から、文化形成の「時間」「空間」を探る。そのうえで、猿楽、喫茶をはじめとする諸芸能・諸文化が、行幸や御成などの儀礼の次第のなかで、どのように組み込まれ、そして、さらにどのように享受され、愛好されたのか、文献史料に基づいて考察する。

3. 研究の方法

室町時代の古記録・古文書などの一次史料や、武家故実などの故実書、そして各種伝来されている御成記や『室町殿行幸御飾記』（徳川美術館蔵）、『小河御所並東山殿御飭図』（徳川美術館蔵）、座敷飾の規範書であり各種写本が伝来している『君台観左右帳記』など、御成の次第や將軍家の座敷飾の様子が具体的に分かる史料を収集し、検討する。まず、現在公開されている史料集の総ざらいをする。次に公開されていない史料に関しては、東京大学史料編纂所、独立行政法人国立公文書館内閣文庫などに、架蔵されている史料、写真帳・マイクロフィルムを用いる。

絵画作品の調査・写真なども積極的に収集し、検討することによって、より具体的な様相が解明できると期待する。

4. 研究成果

関東の鎌倉に本拠地をおいた鎌倉幕府と異なり、京都に本拠地をおいた室町幕府は、当然、旧来の公家社会のしきたりや習わしの影響を強くうける。節句、節会などの年中行事もその現れといえる。こうした年中行事の由来、変遷について、六国史や平安時代の古記録、『万葉集』『源氏物語』などの文学作品などからも、比較・検討を行った。室町時代の武家社会における、平安貴族社会の位置付けについて、再検討を行い、見通しをたてることができた。

京都に、室町幕府という新たな武家政権が根拠地にし、さらに応仁・文明の乱の勃発により、京都の都市空間そのものも変化した。社会の変化とともに、儀礼・行事が行われる建物の位置、構造も変化し、自ずから儀礼の空間も変化する。こうした様相は、文献史料とともに絵画作品などでさらに明確になった。

本研究成果の中間報告も兼ねて、2012年6月3日に開催された第49回藝能史研究會大会（於 同志社女子大学）において、特集テーマ「饗応と贈答のなかの中世芸能」の企画・報告を行った。（基調講演・研究報告・討論）中世史研究では、本特集のテーマである「饗応」と「贈答」をキーワードとして、社会史の視点から、室町幕府の経済活動、さらには室町時代の人びとのつながり、心性の様相が明確にされている。「饗応」と「贈答」が行われた場合は、同時に中世芸能の場でもあった。室町時代には天皇の行幸、室町将軍の御成の場であった会所は、唐物・唐絵で飾られ、そこでは、様々な芸能が行われ

た。個々の芸能は独立したものではなく、同一の場で、関連しながら、影響を与え合って展開をみせた。このような中世芸能が享受された空間として、行幸・御成に注目し、その様相について報告を行った。

なお、研究報告のほかに、一般市民を対象とした講演、講座、雑誌の連載では、本研究課題の研究結果の一部を組み込み、発表することに努めた。研究成果を広く社会に還元することは、科研費の社会的還元のため有効な成果発信であると考えたからである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 家塚智子「室町時代における唐物の受容－同朋衆と唐物」、『アジア遊学』134 東アジアをめぐる金属工芸－中世・国際交流の新視点、pp. 208～223、2010年、査読無
- ② 家塚智子「室町時代における喫茶文化の受容と展開－室町将軍家を中心に」、『財団法人たばこ総合研究センター助成研究報告』2009年度、pp. 76～87、2010年、査読無
- ③ 家塚智子「同朋衆の系譜－足利義満期の遁世者をめぐって－」、『世界権問題研究センター研究紀要』17号、pp. 49～61、2012年、査読有

〔学会発表〕（計2件）

- ① 家塚智子「室町時代における喫茶文化の受容と展開－室町将軍家を中心

に」、財団法人たばこ総合研究センター
一助成研究報告会、2010年7月26日、
東海大学校友会館（東京都港区）

- ②家塚智子「室町時代の行幸・御成と
芸能」、第49回藝能史研究会大会、
2012年6月3日、同志社女子大学（京
都市上京区）

〔図書〕（計0件）

特になし

〔産業財産権〕

- 出願状況（計0件）

特になし

- 取得状況（計0件）

特になし

〔その他〕

ホームページ等

- ①家塚智子「書評 小森崇弘著『戦国期
禁裏と公家社会の文化史－後土御
門天皇期を中心に』」、『藝能史研究』
190号、pp. 47～50、2010年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

家塚 智子 (Tomoko Ietsuka)

公益財団法人 世界人権問題研究セ
ンター・その他部局等・研究員

研究者番号：10370206

(2) 研究分担者

特になし

(3) 連携研究者

特になし